

Applied Economics Intensive

August 11~September 5, 2025



Index

Academic Reading and Writing lessons	3
Business report	3
Poster Conference	5
Research Project Final Presentations	7
Homestay	9
Your impressions of Scotland	10
Your impressions of the city of Edinburgh	12
Your impressions of University of Edinburgh	14
Reflections of Our Experience on This Program	16

[Academic Reading and Writing lessons]

Haruka Goto

エディンバラ大学での授業はとても有意義で座学からプレゼンテーションまで幅広く、英語を様々な方法を通して学ぶことができました。ここでは Academic Reading and Writing lessons において学んだことを振り返りたいと思います。4週間のうち、始めの1、2週間は Academic Reading and Writing lessons が授業時間の半分ほどを占めていました。その後のビジネスレポートという長めのライティング課題や最後のプレゼンテーションに向けた、英語をアカデミックに使うための知識を学び、使えるようにするための準備をこのレッスンを通してできたと思います。



私は今まで英語を書いたり、話したりする際には、単語の意味や発音、文法があっているかに注意していました。その単語がどのような場面で使われるのが一般的で、どのようなニュアンスを持ち、より詳細にどのような意味を持つのかについては知らずに使っていました。しかし、このレッスンを受け、アカデミックな場面ではカジュアルすぎてふさわしくない単語や、意味が似ているあるいは同じだと思っていた単語のニュアンスや意味の違いを学ぶことができました。そのため、以前よりも正確な単語をその時々の場合に応じて使えるようになったと思います。また、グラフの動きを正確に言い表せるようになることを目的としたレッスンでは、短い文章を読みどのようなグラフであるか予想し書いてみるというゲームがありました。このような先生からの一方的なレクチャーではなく多くの工夫がなされた授業で実践的な学びを得ることができたと思います。

[Business report]

Kosei Yamauchi

本プログラムにおけるビジネスレポート作成は、英語での経済分析能力を体系的に養うための極めて重要な機会であった。講義では、アカデミックライティングの基本構造、段落の組み立て方、適切な結束表現 (cohesion) の使い方、さらにはヘッジングや客観的記述の技法など、実務的な文章作成に直結する内容を学んだ。また、引用・参照方法や情報の取捨選択、論旨を明確に示すための論理展開など、レポートを書く上で欠かせない基礎が細かく指導され、これらを実践することで、自分の書く文章が徐々に学術的な水準に近づいていく実感があった。

実際のレポートでは、ベトナムの経済成長率、人口構造、FTA、China Plus One

戦略、地政学リスクなど多様な情報を整理し、投資環境を総合的に評価した。授業で学んだ「段落ごとの明確な主張と証拠の提示」という原則を適用したことで、政治・経済・国際関係を一つの論理線で結び、説得力のある分析を構築できたと感じている。一方、語彙の反復を避けながらアカデミックな文体を維持することには苦労したが、講義で扱った言い換え表現や適切な名詞化の技法を活用することで、文章により深みと精度を持たせることができた。

最終的に、成長分野としての製造業・テクノロジー分野の投資可能性を示しつつ、規制環境の不透明性やインフラ整備の遅れ、地政学リスクなどの注意点を整理し、バランスの取れた分析を提示することができた。この一連の学習と執筆の経験は、将来、企業分析や経済レポート作成を英語で行う際に不可欠な「論理構築力」「情報整理力」「正確なライティングスキル」を着実に高めるものとなった。本プログラムで得た知識と技術は、今後の専門的キャリア形成の強力な基盤になると確信している。

Maho Ishihara



エディンバラサマースクールを思い返すと、様々な感情が入り混じった非常に濃い一か月間が思い起こされる。毎日9時から始まる授業では、英語での指示が分からずストレスを感じたり、課題では思うような結果が出せなかったり苦悩もいくつもあった。しかし、エディンバラ大学の放課後のアクティビティや現地の豊かな自然の中で、仲間と楽しみながら成長できた一か月間であった。はじめに、ビジネスレポートの課題について中心に述べながら、後半では現地での生活も振り返っていきいたい。

ビジネスレポートとは、第2週から始まる個人での課題で、ベトナム、メキシコ、ガーナの中から興味がある国を選択して調査を進め、その国のどんな産業に投資するべきか、それとも投資するべきでないかという結論を出す課題である。最初にみんなで3国の情報を共有しあい、どの国にするか決定して国ごとに分かれて一人一人レポートを作成した。

私個人の振り返りにはなるが長い期間取り組んだため記憶に残っていることを紹介したい。正直に言うところの課題では後悔の部分が大きい。児童労働について考えを深めたくガーナを選択したが、最終的な投資すべきという視点に向かう根拠に繋げることが難しかった。ところで、最初の3国の情報交換ではメキシコでも麻薬などの治安面の課題があると分かっていた。国の産業に投資する時には情勢も考慮すべきと理解できたのはよかったが、“他国の産業に投資”ということに馴染みがないからか、根拠づけの部分をおざなりにしてしまったからか、教授が説明した deep consideration に到達できなかった。しかし、この課題を通して

academic writing を習得できたと強く実感している。また反省から、結論を先に明確に記述し、それに沿った根拠を列挙するという、英語で使われる方法に触れることができた。

海外で1か月生活するという経験は今だからできたことで、不安や自信のなさなどの複雑な感情も味わいながら刺激のあるものとなった。優しいホストファミリーと交わした会話も家族の事や将来のアドバイスなど様々で愛情を感じ目頭が熱くなることもあった。最後に、ホストファミリーとの写真を撮っていなかったのが本当に最大の心残りだ。それはともかく、サマースクールから3か月経ち英語の取り組みが最近途切れてきているが、恐れることなくどんどん英語を使い、自分の強みにしたい。

[Poster Conference]

Yusuke Tsuruto

エディンバラに慣れてきた2週目に、ポスターカンファレンスがありました。スコットランドに関係するテーマのポスターを2~3人組で作り、現地の人たちやクラスメイトに向け発表する。という活動です。プレゼンテーションのように思えるかもしれませんが、実際は違います。スライドなどの視覚情報が、発表者を補助するプレゼンテーションとは異なり、ポスターカンファレンスではポスターが主役で、ポスターの内容に補足をし、質問に回答するのが作成者たちの役目でした。そんなポスターカンファレンスの性質から、ポスターに多くの内容を詰め込もうとしましたが、文章が長くなり、発表を見に来た人の読む気を損なうポスターにしてしまいました。この出来事から、情報を簡潔に、それでいて不足なく伝えることの難しさを学びました。



ポスターを作るための過程で新しく得る知識も興味深いものでした。私たちのグループは、スコットランドの野生動物についての発表を行いました。その過程で、スコットランドの抱える生態系の重要性やその抱える問題点、スコットランド政府の動物保護の取り組みについて詳しく知ることができました。特に、一度絶滅した種を人の手で元の生息地に復帰させる「再導入」によって生態系を復元しようとした事例は、一つの種が地域の自然環境に与える影響力の大きさを物語っており、自然環境に人間が干渉することの危険性と生態系の繊細さに気

づかされました。

得た知識を人に的確に伝える力を養い、答えのない問題を多角的に考えた経験は、確実に自分の成長の糧になりました。

Honoka Akiyama

このプロジェクトを通して、私は2週目の最後に行われたポスターカンファレンスが特に印象に残りました。これは、2人1組でペアを組んでスコットランドに関するポスターを作成し、発表を聞きに来てくれた人にプレゼンテーションを行ったり意見交換をしたりするというものでした。私たちはスコットランドの石油・ガスと再生可能エネルギーについて発表しました。準備期間では、様々な情報を収集しながら自分たちが伝えたいことや他者に分かりやすく伝えるための工夫についてペアの子とたくさん話し合いました。私もペアの子も英語や人前で話すことに苦手意識があったため、想定される質問についての検討やプレゼンの練習を必死で行った記憶があります。英語の発音や流暢さよりも、いかに落ち着きがあるように見せられるかを重視して何度も予行練習をしました。授業で習ったプレゼン中の立ち振る舞いや、意見交換をする際に使える便利なフレーズを振り返り共有しあいながら、少しずつプレゼンの完成度を高めました。

ポスターカンファレンス当日はとても緊張しましたが、来てくれた方々にプレゼンの内容やポスターのデザインを褒めてもらうことができとても嬉しかったです。また、想定していなかった質問や意見を頂いたり、他のペアの発表を聞いて意見交換をしたりする中で、新しい視点や知見を得ることができました。ポスターカンファレンスをするのを初めて聞いた時は私にできるのか不安でいっぱいでしたが、このイベントを通して人前で英語を話すことに対する抵抗感が薄まり、自信が持てるようになりました。ポスターカンファレンス後の帰り道、達成感と充実感でいっぱいになりながらペアの子とお互い頑張ったねと褒め合った時間は、忘れることのない一生の思い出です。

[Research Project Final Presentations]

Yuha Takamatsu



私にとって、このプログラムで最も不安だったのが最終プレゼンテーションである。人前で話すことが得意ではないうえ、質疑応答をできるだけの知識を持ってプレゼンテーションに臨めるかを強く懸念していた。

最終プレゼンテーションでは、「イギリス経済」という大枠のテーマから自分の

興味関心に基づいたトピックを選ぶことになっていた。主にニュース記事や政府のウェブサイトなどを参考にスライドや原稿を作成したが、特徴的だったのは、エディンバラの人々にアンケート調査を行うことが必須であった点だ。

私は主にホストファミリーに、Brexit 前後で生活水準に変化があったか、現状を改善するために政府が取るべき対応は何だと思うか、といった質問を行った。ほかのグループは大学の学生や職員、街中の人々など、幅広い層にアンケートを実施していた。

資料作成が終わると、いよいよ発表練習に移ることになる。しかし、この作業が私には最も負担だった。1人当たり10分の持ち時間が与えられ、原稿の丸読みは禁止されていたため、全員が必死に練習を重ねた。タイムマネジメントや発音、ボディランゲージなど、多くの点で苦戦したものの、エディンバラ大学での授業で学んだスキルを生かして発表を仕上げることができた。

後日、先生からグループごとの詳細なフィードバックをいただき、うまくできた点や自分では気づいていなかった改善点を知ることができた。今後もプレゼンテーションを行う機会がたくさんあると予想されるため、今回の経験は必ず役立つと感じている。

Yuta Usami

私が本プログラムで最も印象に残り、学びが多かったのは「Research Project」と「Final Presentations」だ。これらはプログラムの最終課題で、小グループに分かれて「経済」を中心に気になるトピックについてフィールドワークをし、皆の前で発表をするものだ。これには現地の人々へのインタビューが必須条件であった。

私たちのチームのテーマは「エディンバラ大学と横浜国立大学の地域経済への影響力比較」だ。調査方法は大学の学生や職員さん、ホームステイ先や近所の方々に5つほどの質問をするインタビュー形式で、同様の質問を横浜国大の学生にもした。この現地の人々への取材が私にとって最もハードルが高く、心理的な負担が大きかった。自分の英語が通じない不安などの様々な心配を抱えながらなんとか取材を終えた。現地の方々は親切に質問に答えてくださり、一生懸命私の英語を聞いて理解しようとしてくれた。現地の人々の優しさに触れるとともに、日本ではなかなかできない、精神力や忍耐力が鍛えられた貴重な経験だった。この取材の後、私はより積極的に様々なことに挑戦するようになった。自分の帰国後の行動に大きく影響した出来事の一つだと今は感じている。

そして最後の発表にも大きな壁があり、用意した原稿を見ずにスムーズに英語で発表をしなければならなかった。私がいただいたフィードバックは大きく二つで、スライドが見にくいなどの英語以前の問題と、聴衆とのアイコンタクトが欠如だ。これは自分の英語への自身の無さや人前での緊張によるものだと思う。しかし、このような挑戦の場がなければ自分のこういった弱さを



正面から見つめて、自覚し、改善していこうと思うことはなかったはずだ。この経験は精神的な面でも発表技術の面でも自分の成長に大きく寄与したと強く思っている。

異国の地で自身の弱さと向き合い、それを乗り越えた今回の経験は、これからの人生において困難に立ち向かうために必要な自信と糧となると思う。

[Homestay]

Taisei Shiraki

留学中、最も過ごす場所は宿泊先だ。その環境は、留学体験を大きく左右する。そこで、留学を考える方々の一助になればと思い、私のホームステイの経験を紹介する。

私の滞在先は、スコットランド人の老夫婦の家だった。平日は基本夕食を一緒にとることになっており、そこで様々なことを話した。ホストファザーとは、ロリー・ギャラガーやオアシスなど音楽について話すことが多かった。また、おすすめの飲食店について、色々助言をいただいた。あそこは観光客向けでよくないけど、安い酒がまずいけど、夫婦仲良く話し合い、半ば言い争い、アドバイスしてくれた。このように会話は大いに楽しめたが、やはり言語の壁はある。スコットランドの訛りや独特の表現に苦戦した。だが、そのような表現に触れることは楽しかった。辞書にはない知識を得られるのは、留学の醍醐味である。

食についても印象深い。まずいと言われがちな英国料理だが、実際は大変おいしかった。中でも記憶に残っているのは、ホームステイ最後の夕食だ。特別にと、フィッシュ&チップス、ハギス、そしてスコッチウイスキーをふるまってくれた。とてもおいしいと言うと、これが伝統的なディナーなのよと誇らしげに言うホストマザーが大変かわいらしかったのを覚えている。

滞在中、大きいトラブルはなかった。だが、生活に関するあれこれの部分で、少々すれ違いが起きてしまうこともあった。初日に説明してくれたとき、聞き取れずなあなあにしていたことがありそれが良くなかった。その共通認識は、しっかり作っておくべきだったと反省した。

ホームステイは、生活を通して言語の習得以上の収穫を得られる体験だ。だが、その良さを引き出すには、何より自分から会話しに行く態度が大切である。また、共同生活であるということを忘れてはいけない。積極性と尊重の姿勢があれば、ホームステイは一生涯の経験になるだろう。



Kokone Ueno

留学は期待と不安が入り混じったものだったが、温かいホストファミリーのおかげで留學生活がかけがえのないものになった。到着した日から、彼らは私たちを家族の一員として迎え入れてくれ、毎日が温かい笑顔と優しさで満たされていた。特に印象に残っているのは、ホストファミリーとの何気ない日常の触れ



合いだ。犬の散歩に一緒に行き、道端に咲く花を摘んだり、庭になっているリンゴを分け合ったりして食べたりした。また、エディンバラの伝統行事であるミリタリータトゥーを一緒に見に行ったことも忘れられない思い出だ。世界各国の軍隊によるパフォーマンスは圧巻で、異文化に触れる貴重な経験となった。ホストファミリーは、私たちにエディンバラの歴史や文化を丁寧に教えてくれ、より深く理解することができた。そして、何よりも心に残っているのは、ホストファミリーが私たちのために開いてくれたワインチーズパーティーだ。エディンバラ大学での最終課題で、私たちは現地の人々へのインタビューを行う必要があった。協力的なホストマザーは、私たちのために友人たちを自宅に招き、盛大なパーティーを開いてくれたのだ。ネイティブスピーカー同士のテンポの速い会話に最初は戸惑ったが、積極的に話しかけてくれる彼らの優しさに触れ、徐々に会話に加わることができた。このパーティーのおかげで、私たちは

課題を無事に終えることができただけでなく、エディンバラの人々の温かさに触れることができた。一ヶ月という短い期間ではあったが、愛情深いホストファミリーとの出会いは、私の人生において忘れられない宝物となった。彼らとの交流を通して、私は異文化への理解を深めることができただけでなく、人との繋がりがりや温かさの大切さを改めて感じることができた。留学を終えた今でも、私はホストファミリーと連絡を取り合っている。彼らは私にとって、第二の家族のような存在だ。

[Your impressions of Scotland]

Senou Ashikari



私が今回のエディンバラサマースクールでのスコットランドの印象に残った点は二つある。一つ目は町中にある建造物について、日本とは違った形で街が構成されていた点について非常に新しい印象を受けた。エディンバラの市街地にはもちろん多くの建物があるのだが、日本の市街地とは大きく異なった作りをしている。具体的に言うと、歴史的な建造物やそれ風に作られている建物がほとんどであるということだ。例えば日本では、基本的にはコンクリートで作られた画一的なビルによって街が構成されている。しかし、エディンバラでは基本的に建物は石造りであり、地面も石畳のような感じである。日本で例えるならば京都のような感じであろうか。この点に関して非常に美しく感じたと同時に、あえてこの時代に歴史的な建築方法で街を残しておくことにより感じられる、街の歴史の深さを感じることができた点を非常に興味深く感じた。二つ目に印象に残った点は、街を行きかう人々や交流する人々が日本人と違う点を多く持っていた点だ。特に、レストランなどで食事していると具体的な違いを感じることができる。例えば、私が一番驚いたのは、レストランで食事をしていると、その食事がおいしいかどうか店員さんに尋ねられるのだ。私は今までこれを日本で体験したことはなかったのだが、どうやら店員さんとコミュニケーションをとるということはスコットランドでは普通なのだと知り、非常に驚いた。また、公共交通機関のなかでも知らない人から普通に話しかけられ、スコットランドの人々は非常にフレンドリーなのだと知った。まとめると、私は一か月を通じて、スコットランドは伝統を重んじる非常に優しい人々の多い場所であったと感じる。

Masanori Mano

渡航前、私はスコットランドに対して「曇り空が多く、寒くて厳格な場所」というイメージを抱いていました。しかし、実際に現地で生活してみて最も強く印象に残ったのは、そうした気候の厳しさとは対照的な「人々の温かさ」と、誰もを受け入れてくれる「懐の深さ」でした。特にその文化を肌で感じたのが、街の至るところにあるパブでの経験です。私はもともとウイスキーに興味があり、本場のスコッチを楽しみたいという思いから、放課後や週末に勇気を出してパブへ足を運びました。そこには、年齢や国籍に関係なく、グラスを片手に会話を楽しむ人々の姿がありました。



最初は英語を話すことに躊躇いがあり、「間違った文法を使ったらどうしよう」と不安を感じていました。しかし、パブという開放的な空間と、現地の人々の飾らないフレンドリーさが、私の背中を押してくれました。勇気を出して注文し、隣に座った地元の方と言葉を交わすと、彼らは私の拙い英語にも真剣に耳を傾け、温かく応じてくれました。

この経験は、私にとって単なる観光以上の意味を持ちました。教室でアカデミックな英語力を磨くだけでなく、街に出て生きた英語を使うことで、「完璧でなくても、伝えようとする姿勢があれば通じ合える」という自信を得ることができたのです。ホストファミリーとの生活でも同様の温かさを感じ、英語を話すことへの心理的な抵抗が自然と薄れていくのを感じました。

スコットランドは、雄大な自然や歴史的な街並みも素晴らしいですが、私にとっては「人と関わることの楽しさ」を再確認させてくれた場所です。これから参加される皆さんも、ぜひ勉強の息抜きに街へ出て、現地の人々の輪に飛び込んでみてください。そこで得られる自信と交流は、きっと留学生活のかけがえのない財産になるはずです。

[Your impressions of the city of Edinburgh]

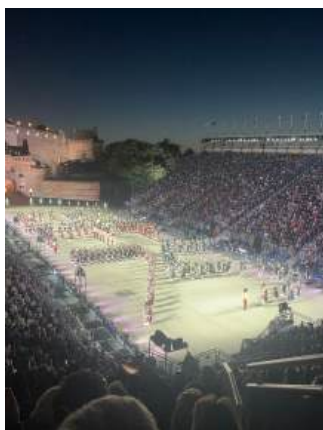
Haruka Mizushi

私はエディンバラの街並みについて紹介したいと思います。私は初めて街を見たとき、歴史ある建物が並ぶ光景に圧倒されました。以前から「ロンドンと横浜、エディンバラは京都のようだ」と聞いていましたが、実際の街は想像以上に重厚で、日本では決して見ることでできない独特の雰囲気が広がっていました。そんな街の美しさとともに、エディンバラで特に印象に残ったことが三つあります。

第一に、現地の人々の温かさです。ホストファミリーに初めて会ったとき、私は英語に慣れておらず、単語を並べるような話し方しかできませんでした。しかし、そんな拙い英語でも一生懸命理解しようとしてくれたため、安心して会話を

ることができました。街の人々も非常にフレンドリーで、初対面でも気さくに話しかけてくれたため、英語を話す不安が自然と薄れていきました。日本に関心を持ち、色々なことを聞いてくれる人も多く、英語で積極的に交流したいと思える瞬間が多くありました。

第二に、物価の高さです。エディンバラ大学に通い始めた頃、水のペットボトル一つで1ポンド以上（当時約200



円)と、あまりの高さに驚きました。円安もあって、私はよく「リドル」という格安スーパーで昼食を買っていました。授業の中で、現地ではアルバイトの時給が日本の2倍以上あることを知り、高い物価にも納得できましたが、日本人の私にとっては大きな衝撃でした。



第三に、エディンバラフェスティバルです。滞在期間がちょうどフェスティバルと重なり、一ヶ月にわたって街全体がとても賑やかでした。日本ではこれほど長期間にわたる大規模な祭りは珍しく、とても印象的でした。このフェスティバルでは「フリンジ」と呼ばれるイベントが中心で、サーカスやコメディ、マジックなどが街の各地で行われていました。私はサーカスとマジックを見ましたが、どれも驚くような技ばかりで忘れられない経験になりました。また、有名な「ミリタリータトゥー」も迫力満点で、特に心に残っています。

初めての留学は、異文化の中で生活することの楽しさと刺激に満ちていました。エディンバラは必ずまた訪れたいと思えるほど魅力的な街で、この経験は大変貴重なものとなりました。

Ene Kinoshita

私はエディンバラに滞在した一か月間で、エディンバラという街のたくさんの魅力に気づきました。

まず印象的だったのは街並みです。エディンバラは歴史と伝統を感じさせる石造りの建物が立ち並び、旧市街と新市街のコントラストが美しく調和していました。坂道や石畳の通りを歩くと、まるで中世の世界に迷い込んだような感覚になり、街全体が一つの大きな博物館のように感じられました。





二階建てバスに乗って窓を眺める時間は心に安らぎを与えてくれました。少し町の中心部から離れると大自然が広がっていて、丘や山に登ることもできます。大学の最後の授業の日に見た、素晴らしい朝日は感動するほどきれいで忘れられません。

文化面でも多くの刺激を受けました。美術館や博物館ではスコットランドの歴史や芸術に触れることができ、FRINGE・フェスティバルでは多様な表現の舞台芸術を楽しみました。街の至る所で音楽や演劇が行われ、芸術が生活の一部として根付いていることを強く感じました。

現地の人々の人柄も忘れられません。ホストマザーは温かく迎えてくれ、日常生活の中で英語を使う機会を自然に与えてくれました。大学の先生方は熱心に指導してくださり、学生同士の交流も活発でした。町で出会った店員さんやバスの運転手さんも親切で、気軽に声をかけてくれる姿に心が和みました。

気候は夏でも涼しく、時には肌寒さを感じるほどでした。雨が多く、天気が変わりやすいのは少し大変でしたが、そのおかげで街の緑が美しく保たれているのだと思いました。また、夏の間は日が沈むのが午後九時頃のため、夜でも明るいのは日本とは違ってとても新鮮に感じました。

私は今回のプログラムでエディンバラという街を知り、魅力を肌で感じる事ができたことが本当に良かったです。

[Your Impressions of University of Edinburgh]

Yuki Fujita

University of Edinburgh (以下 UoE) は世界大学ランキングでも上位に入るような名門大学で、ダーウィンやベル、マクスウェル、アダム・スミスなどさまざまな分野で著名人を輩出している。そんな名門大学で授業を受けることになり、当初はかなり身構えていた。エディンバラに到着した私は、ホストファミリーと一通りの自己紹介や会話を済ませ、いよいよ翌日大学に行くことになった。その夜はなかなか眠れなかったのも、ホストファミリーと一緒に映画を見たものの、



内容は何も覚えていない。翌朝、シリアルを掻き込み、早めのバスに乗って大学を目指した。UoE は市の中心部にあるため、バスを降りるとまず目の前の街並みに圧倒された。人生で一番豪華な通学路だった。

石畳を歩いて 10 分ほどで Patterson's Land のキャンパスに着いた。門をくぐると、まるで異世界に迷い込んだような雰囲気、伝統的な石造りの立派な建物に囲まれた。想像をはるかに超える荘厳さに圧倒され、恐る恐る中へ入る。G42 の

教室を探しながら歩いた廊下でさえも、写真のように、いとも簡単に映画のワンシーンになってしまふほど美しかった。教室には誰もおらず、キャンパス内を一周して雰囲気慣れることにした。しばらくして教室に戻ると、先生方が入ってきた。厳かな雰囲気とは対照的に、先生や職員の方々はとてもフレンドリーで話しやすかった。初日は、緊張が次第に安心へと変わり、とても良い一日になった。最初の週は、ホストファミリーの友人の英語がなかなか聞き取れず、夕食のときにうまく話せなかった。そのとき、UoEの職員の方に相談に乗ってもらい、彼らは親身に対応してくれた。彼らのおかげで今回のホームステイはとても楽しいものになった。UoEは世界的に評価が高く、もちろん授業や施設の質もすごくよかったが、とくに学生の面倒見が非常にいい大学だと感じた。今回のプログラムに参加できたことを非常にうれしく思うとともに、UoEとYNU、そして両親に心から感謝したい。



Shin Miyamae

8月の一か月間、私はエディンバラ大学で短期留学を経験した。大学は街の中心部に位置し、重厚な石造りの校舎であった。まるで歴史の中に迷い込んだような雰囲気を感じた。1583年創立という長い歴史をもつだけあり、キャンパスを歩いているだけで学問が積み重ねられてきた時間を感じることができた。

授業は英語で行われ、担当の教師の方々とTAの方はとても優しく、私が言葉に詰まっても耳を傾けてくれた。経済学を題材にしつつ、イギリスの文化や産業に触れる内容で、難しすぎず、それでいて刺激のある時間だった。課題として取り組んだスコットランドのウイスキー貿易の発表や、市内での日本食に関する簡単なアンケート調査は、他の留学生と関わる機会でもあったので英語力を上げることができた。

大学の周辺環境も魅力的だった。キャンパスのすぐそばにはエディンバラ城がそびえ立ち、通学のたびにそばを通過していた。歴史的な街並みと大学が調和しており、日常生活そのものが一つの文化体験のようだった。大通りにも歩いてすぐ出られるため、授業後に飲食店やバーを巡るのが楽しかった。大学には広くて静かな図書館や、設備の整ったジムもあり、学生生活を豊かに過ごせる環境が整っていた。

エディンバラ大学での一か月は、学びだけでなく、街の歴史や空気を肌で感じる特別な時間であり、一生忘れることのない経験であった。

[Reflections of Our Experience on This Program]



During the four-week English for Applied Economics at the University of Edinburgh, I experienced substantial academic and personal development. The most significant improvement was in my academic writing skills. Through weekly tasks and detailed feedback, I learned how to structure paragraphs, develop cohesive arguments, and avoid unnecessary repetition. These skills were especially important when preparing my business report, in which I organized the political and economic background of my chosen country in a logical and persuasive way. Although I struggled at times with vocabulary and finding precise expressions, this challenge pushed me to expand my academic range and write with greater accuracy.

The presentation component of the course further strengthened my communication abilities. I designed simple and clear slides and focused on delivering my ideas slowly and confidently. The Q&A session was particularly valuable, as answering questions helped me develop the ability to respond spontaneously an essential skill for future academic and professional settings. I also felt my listening skills and willingness to contribute to discussions improve noticeably, allowing me to express my views more actively than before.

Beyond the classroom, the program offered unique opportunities to engage with Scottish culture and daily life. Spending a month with a host family enabled me to practice English in authentic situations, including a memorable discussion with my host mother about the differences between the Japanese and UK political systems. These experiences, combined with time spent with classmates exploring the city, helped me adapt to living abroad and become more confident in international environments.

Overall, this program provided a solid foundation for my future career goals. I hope to work in fields such as investment banks or international organizations, where writing reports and presenting findings and discussion in English are essential. This course gave me the tools and confidence to pursue those ambitions.

(Kosei Yamauchi)



I sometimes remember this summer in Edinburgh. There are many things I learned, and it was an amazing memory. I will introduce my stay in terms of Edinburgh University, my homestay, and my holiday trip. First of all, I think Edinburgh University is the best place to study abroad, because the teachers support us a lot, and Edinburgh is very beautiful and safe.

I struggled in class because listening to English was very tough for me, but teachers carefully listened to my questions even if my English explaining skills were very poor. There was warm atmosphere, so I did not feel scared to speak up in class. We worked together at the poster conference and the final presentation, but I relied on my partners too much. I felt I should have tried harder by myself. Also, I enjoyed the after-class activities offered by the university. We experienced Scottish culture by dancing Ceilidh and eating Scottish dishes such as Haggis.

Second, the core of my Edinburgh life was my homestay. I started my homestay when my host mother and father traveled and left home, so my host sister took care of me. I felt nervous at first, but they welcomed me saying “Help yourself” and “You can feel it’s your home during your stay.” We talked a lot at dinner time about our families and future jobs. Especially, I’m affected by host mother’s advice about my future.

Third, the holiday trip to Paris was a big experience for me. Before the trip, I thought European countries were not so different from each other. However, I noticed many differences between Paris and Edinburgh, for example in safety and the personalities of the people living there.

In conclusion, through my stay, I experienced many challenges and emotions. And each of them became important to me. I sometimes regret that I could have worked harder, but it also helped me grow. Moreover, I can get perspective to see my ideal future in foreign country.

(Maho Ishihara)



I had dreamt of studying abroad long before I entered university, and the idea of living overseas had always fascinated me. This Applied Economics Intensive Program in Edinburgh finally allowed me to realize that dream. Although I am not particularly good at adapting to new environments, and even felt hesitant about attending the program's information session, I eventually decided that opportunities like this require a bit of spontaneity and courage. With that in mind, I took the plunge and applied.

My time in Edinburgh turned out to be far more enjoyable and enriching than I had expected. The city's streets, lined with beautiful stone buildings, had a truly distinctive and atmospheric charm, and the sound of bagpipes often filled the air. I was also able to experience aspects of Scottish culture that I had only ever heard about, such as attending the world-famous Military Tattoo and taking part in a whisky tasting. These experiences gave me a deeper appreciation of the country's history, traditions, and unique character. Not everything went smoothly, however. I unfortunately lost my passport just as I was preparing to return home, which meant that my stay had to be extended by about a week. At the time, it was an stressful situation, but looking back, even that unexpected incident has become part of the overall memory of this unforgettable summer.

Despite the challenges, I can confidently say that the program gave me one of the most meaningful experiences of my life. I am truly grateful to my friends and teachers, whose support and encouragement made it all possible.

(Yuha Takamatsu)



I will never forget the experiences I had this summer. Studying abroad taught me far more than I expected, and many moments deeply moved me. First, I would like to talk about my homestay. Another student from the Edinburgh Summer School stayed in the same house as me. My host family consisted of a mother, four daughters, two cats, and a dog. Two of the daughters lived elsewhere, and the other two were usually busy, so my host mother was often at home on her own.

Her name was Moira, and I still remember the warmth with which she welcomed me. On the first day, I encountered some trouble at the airport and arrived late at night. Despite

this, she greeted me with a cup of hot chocolate and a warm hug. Throughout my stay, she helped me in countless ways and cooked delicious meals every day. I especially loved her salmon and mashed potatoes, and when I told her so, she kindly made them again for me. My days with her were filled with joy. In addition to taking walks together with her dog, she even held a cheese and wine party for us and shared many stories about Edinburgh. I sincerely hope to meet her again someday.

Next, I would like to talk about the classes. We had class every morning, and our mentor guided us to various places in Edinburgh, such as the National Museum, art galleries, and a nearby hill. Classes began at 9:00 a.m., and we learned a wide range of skills including academic writing and how to give effective presentations. The presentation class left the strongest impression on me. We were divided into pairs and prepared a 20- to 30-minute presentation during the third and fourth weeks. It was challenging because we had to speak entirely in English, but the experience was incredibly rewarding. Through the process, I realized how important cooperation and communication are when working with a partner.

If you are worried about studying abroad for the first time, I want to assure you that the experience will open an entirely new world. Not only will you improve your English skills, but you will also encounter opportunities and perspectives that you could never gain in Japan. Studying abroad is truly worth the courage it takes to begin with.

(Haruka Mizushi)



Through Applied Economics Intensive, I learned that people can connect with one another even if there's a language barrier. I took part in this program to improve English skills such as vocabulary, the ability to use correct grammar, and speaking ability. I tried to understand what speaker wanted to convey as much as I could and express what I wanted to say. But I experienced difficulties in telling my host mother in English what I was thinking many times through homestay. I didn't have many words and correct grammar to use, so I was not able to say my feelings well and I probably didn't always talk with correct grammar. Then she used gestures and asked me a few questions with easy words.

Also, I think we communicated not just with words, but with our faces and actions. Even

when I couldn't put it into words, she understood and hugged me, or smiled at me. I was moved by this experience and realized that people can communicate regardless of language differences. This learning gives me courage when I interact with new people. Also, I have gotten better at reading and speaking English through this study abroad. I read many English sentences and speak English a lot in four weeks. I struggled with these things during the first week. However, I gradually came to feel that using English was natural. When I first started studying abroad, I thought things in Japanese and translate it into English before speaking, but this process disappeared before I know it. When I converse in English, I no longer translated through Japanese in my head. In other words, I simply think and speak in English during conversation. I was surprised at my progress like this. Also, I felt the enormous power of placing myself in an environment where I must use only English. Therefore, this program became an opportunity for growth for me.

(Haruka Goto)



To be honest, I had never expected this program to change my mind this much. The four weeks I spent in Edinburgh will forever be in my memory. The program brought me two changes, improving English skills and changing my perspective. I applied for this program to improve my English skills, especially speaking. So, during the program, I tried to speak English as much as possible, make the most of opportunity given. As a result, I could improve my speaking skills; moreover, I have become less nervous when speaking English. Of course, spending time in an environment where most people cannot understand Japanese, I faced some difficulties. In the first week, I ran into some problems.

The first challenge that I faced was the accent of Scottish English. When I met my host father for the first time, I could not understand about half of what he was saying, and when he talked with local people, I could not understand what they were saying at all. It was enough to give me anxiety for the coming four weeks. Other than that, I faced many difficulties at the start of the program. However, as I spent days there, those problems were solved gradually. Through the program, I went to many places, talked to many people, and experienced many things. It taught me new things and brought me new perspectives. Every dinner I had with my host parents was precious. They shared their

pride as a Scots, some Scottish slang, and much more. Their tales of their life which were spent in a place with different common sense from Japan gave me a feeling that my world has broadened.

All in all, it was awesome experience. By putting myself in a situation where I had to go outside of my comfort zone, I was able to improve my English skills a lot. Spending time in places where I can meet a lot of new things, I was able to update my perspectives. Making use of these experiences, I want to dive into new things, because I learned the importance of taking on a challenge.

(Yusuke Turuto)



This program is extremely various and useful experience for me. First, I could make me braver to speak to strangers in English. I must interview local people in Edinburgh for the final task, “Research project”. This is one of the most memorable events for me. I spoke to some students and staffs I didn’t know in English, but I was anxious that my English might be unclear or wrong to them. However, after I managed to ask strange people and finished the interview, I got to feel full of confidence to talk with strangers and use English in communication.

Second, I realized I needed to improve my listening skills. I could listen to and understand teachers’ English which is easy to understand because they speak English easy to listen to. However, I couldn’t understand local people’s English which speed and pronunciation they used daily. I faced my low English listening skill and I decided strongly to strengthen it. In addition, the “Final Presentation” improved my presentation skills. Our teachers told me to try to do eye-contact while I speak. From then, I started to try to eye-contact in speaking even in Japanese. I couldn’t get his realization if I didn’t join this summer school. Finally, I could talk with some strange people who I happened to meet. In climbing a hill near our college by myself, I met a man who was a tourist from the U.S. and had studied science in Edinburgh. We were talking about each other until we finished climbing. I believe this experience is precious and from then it is one of the motivations to study English.

I think this program is an opportunity to change some bad points of my skills and characters, and I could make the most of this chance.



My most astonishing and memorable experiences in Edinburgh were its food and people. Firstly, about food, it was surprising, because it was beyond my expectation. Before I visited Edinburgh, I heard Scottish meals are not so good compared to other countries' cuisines, but it was not. They were actually pretty good. For example, one of the most famous, maybe infamous, traditional foods in Scotland is Haggis. It is mix of sheep's organs like heart, liver, and lungs. When I first heard that, I was so shocked and thought there was no way that I could eat that. However, it tasted actually quite good. I learned that we have to actually experience something in order to fully understand what it is. It actually changed my mindset.

Secondly, people in Scotland, or in whole UK, were very new experiences to me. In Japan, almost all people tend to care about their personal space most. That is why they do not want to approach or even talk to strangers in public places like buses or stores. However, in Edinburgh, most people did not hesitate. For example, for a survey, I had to interview several people around the university, and I expected that it would be really difficult. This is because we knew, in Japan, people do not even answer to such kind of sudden interviews. However, in Scotland, it actually went well and almost everyone answered the interview with smile, even a shop clerk. And I learned that this means that they do not hesitate to show their kindness. There is an example too, when I tried to take a train, a man actually said that he would stop at the next station so I can take a seat instead of him. I often use buses in Japan, but it rarely happens. From this experience, I learned that everyone is actually kind. In Japan, I think many people do not talk to strangers, because they are afraid of being scolded by others, like me in before. However, now, I have learned that everyone is usually really kind and nice, so we do not have to be afraid of others.

(Senou Ashikari)



Joining the Applied Economics Intensive at the University of Edinburgh was a great experience for me. Before I came here, I was often afraid to speak English in front of people because I worried about making mistakes. However, this summer program changed my attitude completely.

First, I learned a lot from the Academic Reading and Writing lessons. I learned how to structure my essays and how to think logically in English. Specifically, I practiced how to build strong arguments and use academic vocabulary effectively. These were practical skills that I did not know before. As an economics student, I often need to write papers, so I feel that I can use these skills directly for my future studies and research. Second, the biggest change for me was that I lost my hesitation to speak English. In class, everyone was supportive, so I tried to speak up more. I became more sociable and started to enjoy communicating with others. I realized that making mistakes is part of learning. This new mindset helped me to relax and enjoy conversations without being nervous about my grammar.

Outside of class, I also had a wonderful time. My host family was very kind and taught me about Scottish life. Also, I went to local pubs to try Scotch whisky. Since I have an interest in whisky, tasting authentic Scotch in a local atmosphere was a highlight of my trip. It was a great opportunity to talk with local people and other students. Through these experiences, I gained the confidence to speak English without fear.

Now, I feel much more comfortable using English. I want to keep challenging myself with what I learned in Edinburgh.

(Masanori Mano)



I looked forward to studying abroad, but I also felt nervous before going to Edinburgh. However, the people I met made my stay in Edinburgh truly special. Every day was enjoyable and full of new experiences. In this essay, I would like to talk about the people who made my time there unforgettable.

First, my host family had the biggest influence on my experience. From the first day, they welcomed me as part of their family. Their kindness and warm smiles helped me relax and feel safe. I especially remember the daily moments we shared. We walked their dog

together every day, sometimes picked flowers on the street, and ate apples from a park. These everyday activities made me feel close to them. Through spending time with them, I learned more about their culture and felt how important it is to connect with others. Even now, after returning to Japan, I keep in touch with them by WhatsApp. They are like a second family to me.

Next, I want to talk about my friends. I studied abroad with fourteen other students. Before the trip, I didn't expect that we would become so close. Thanks to them, my worries became exciting. After school and on weekends, we visited many places together in Edinburgh. Our trip to London with eleven of us was especially memorable. We explored famous spots, enjoyed local food, and had a great time. We are going out together and having lunch together after returning Japan.

Because of these wonderful people such as my host family and my friends, my study abroad experience became the most enjoyable month in my life. I will always remember the warmth, support, and happiness they gave me.

(Kokone Ueno)

I applied to this program for several reasons. First of all, I wanted to enhance my English skills especially listening and speaking. And I also wanted to travel to many places and communicate with different people. As a result, I could do all these things in this program. Teachers and staff in UoE were all friendly and reliable. First week in Edinburgh, I had some difficulties communicating with my host family. Then I talked about it to staff. They understood my situation and acted quickly. Thanks to them, I was able to communicate with my host family and their friends every dinner. My homestay turned out to be a really great experience.



My best memory during my homestay is walking with dogs. I hadn't had any pets before, so it was my first time to play animals. That was really precious time. In Scotland, there are many animals. I could see highland cows, sheep, rabbits, squirrels, and so on. I really love them since this program.

Every class included some activities, which helped me improve my English. At last, I could give 10-minutes speech successfully. That makes me more confident in English.

Not only did I study, but I also traveled to many places. Classes were usually held from 9 am to 1 pm, so I visited parks, mountains, farms and a beach after school. Since free bus pass was given, I could travel without paying. On weekends, I traveled to London and Liverpool with my friends. I love the Beatles, so I traveled around places related to them. I could talk to local people during my trip and that was truly good experience.

These precious experiences have perfectly prepared for my future journeys. I sincerely hope that many students will join this program and gain the same profound experience.

(Yuki Fujita)



On 9th October 2025, I arrived in Edinburgh. The course in English and economics at UoE (University of Edinburgh) started then. The program was satisfying, but not too demanding. Each weekday, we had class from 9 am to 1 pm, sometimes until 3 pm. UoE is in the center of Edinburgh, so we could easily go to main sightseeing spots in the city after the class. As a student of UoE, even temporarily, I had to work hard. We had some assignments. One that impressed me strongly was the poster session. My

team chose a topic about wildlife in Scotland and made a poster about it. The most memorable part was session. We had to make a speech in front of native students. I felt a little nervous, but it was a valuable opportunity to communicate with students at UoE. Another meaningful task was the research project. We had to interview local people to get enough information about our topic. My topic was complex, about immigration, so it was very difficult to ask local people to answer such questions. Therefore, I made a form with a QR code and used it to make answering our questions easier. Even though it was hard to talk to strangers, I did. The experience was helpful and will continue to be useful not only abroad but also in Japan.

This course was not only about learning. As I said, we had enough time to visit many spots. If someone asks me where to visit in Edinburgh, I would recommend joining a whisky tour. That was great. I could learn both about Scotch whisky and English. Tasting was also fascinating. The flavor was definitely different between the brands of whisky. Also, the history and economy surrounding Scotch whisky was interesting. As an economics student, I reflected on how brands are protected in Japan.

Overall, the coursework is helpful and will remain useful, leaving me with lasting lessons

about communication, respect, and the protection of cultural and economic traditions.

(Taisei Shiraki)



Participating in this four-week program at the University of Edinburgh was one of the most meaningful experiences of my life. At the beginning, I struggled to speak English smoothly. I often hesitated during conversations and felt nervous in group activities. However, through daily classes, presentations, and interactions with classmates, I gradually became more confident. By the final week, I could express my thoughts more naturally, and I truly felt the improvement in my communication skills.

The classes at the university were highly interactive. We worked on group projects, practiced English presentations, and discussed cultural topics that helped me deepen my understanding of the UK. These sessions not only strengthened my English ability but also taught me how to collaborate with people from different backgrounds.

My homestay experience was another highlight of the program. My host father took me on walks with his dog sometimes, and these simple moments made me feel part of the family. We shared meals together, which gave me the opportunity to learn about British home cooking and daily life. They also invited me to two shows, allowing me to experience local entertainment culture firsthand. These warm interactions helped me feel comfortable living abroad.

During the weekends, I explored Edinburgh, Stirling, Glasgow, and London. Each city had its own charm, Edinburgh's historical atmosphere, Stirling's castles, Glasgow's modern energy, and London's global diversity. Experiencing British culture through food, museums, and landscapes broadened my perspective.

This program gave me not only language skills but also unforgettable memories and confidence to communicate internationally. I am grateful to everyone who supported me, and I hope future participants will also enjoy discovering new experiences through this program.

(Shin Miyamae)



The reason why I decided to participate in this project is that I want to develop my English skill and overcome my shyness. While I'm interested in English and different culture, my English skill was very low. In addition, this program was the first opportunity to go abroad, so I got on the plane feeling a little anticipation and great worry.

In the university classes, we learned how to use English academically. In small group lessons, we had a lot of chances to speak up, and there were opportunities to give a presentation in front of classmates every week. To be honest, I felt inferior during the program because most of my classmates seemed more fluent and confident in English than me. However, they sometimes helped and encouraged me. Also, my classmates who lack confidence in English like me empathized with my feelings, and we cheered for each other. Thanks to them, I could keep trying in the classes, and I gained confidence in communicating in English and speaking in public. I also had a lot of interaction with my classmates outside of class. The most memorable thing is a three-day London trip. I enjoyed beautiful view, and two musicals there with my friends. I was under the impression that there are many dangers abroad, and it's difficult to communicate with foreign people. However, everyone we met in London was so kind and friendly. Through this trip, I've developed a stronger desire to travel to many different countries, see beautiful scenery, and communicate with various people. I think that this program was great experience in my life. I'm grateful to have met my classmates in Edinburgh, and I want to keep studying English hard to achieve the ideal level of English.

(Honoka Akiyama)



Studying abroad gave me many valuable things, but the greatest gift was experience. It had been almost ten years since I last traveled overseas, and this was my very first time in Europe. Because of that, every day felt fresh, exciting, and full of discovery.

Edinburgh welcomed me with its unique atmosphere, and I quickly realized how much I could learn outside the classroom. During my stay, I visited art galleries and museums, where I saw works that opened my mind to new ideas. I also attended musicals and the

famous Fringe Festival. Each event gave me a chance to experience culture and art in ways I had never imagined before. Every time I encountered something new, I felt my world and my values were expanding. These moments reminded me that learning does not only happen in books, but also through direct contact with people, places, and traditions.

The people I met made this journey even more special. My host mother welcomed me warmly and made me feel at home. Professors at the university guided me with passion and encouraged me to think deeply. Even simple conversations with shopkeepers in town added wealth to my daily life. These encounters helped me understand local culture and improved my confidence in communication.

Before going abroad, I felt nervous because of my weakness in English. Traveling overseas seemed like a huge challenge. However, after living in Edinburgh, I realized that communication is possible even with imperfect English. This gave me courage and made me want to travel abroad again.

Overall, my study abroad experience was a precious opportunity that broadened my views and values. I believe the lessons I learned in Edinburgh will continue to influence my future studies and my life.

(Ene Kinoshita)
